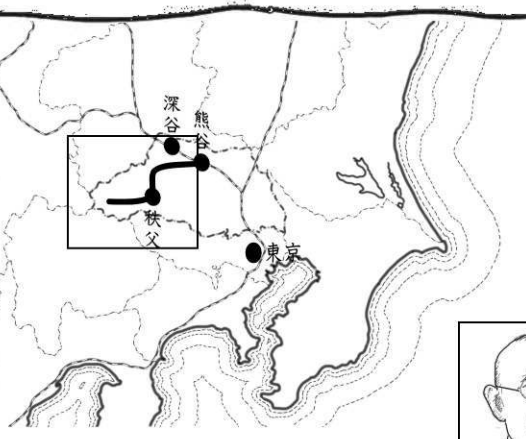


セメントの道



秩父鉄道の前身である上武鉄道は、当時盛んだった繊維生産が盛んだった秩父と上州館林とを結ぶ目的で設立されました。

深谷にあった日本煉瓦製造の専務で、のちの秩父鉄道代表取締役となった諸井恒平は、明治末年に武甲山の石灰岩に注目し、煉瓦製造よりも、セメント製造事業の将来性を見込み、1923年（大正12年）に秩父セメント会社を設立しました。セメント製造事業の開拓をいち早く手掛けたことから「セメント王」とも呼ばれました。

秩父鉄道では現在も、武甲山の良質な石灰石の貨物輸送が続けられており、その取扱高は日本の私鉄の中で上位に位置します。



旧秩父セメント第二工場
昭和31年に建てられた、秩父の巨大なセメント製造工場。帝国劇場の設計などで知られ、日本近代建築を代表する建築家のひとりである谷口吉郎による設計。



谷口吉郎（1904-1979）
石川県金沢市出身。「東京御所」「東京国立博物館東洋館」等、日本を代表する数々の設計を手掛ける。また、新しい建物を造るばかりではなく、古い建物を保存することを唱え、「博物館明治村」の開村に尽力し、初代館長となる。

諸井恒平（1862-1941）
表庄市出身。織物の渋沢栄一の推挙で日本煉瓦製造や秩父鉄道の経営に参画。実業家としての知識と経験を積み、武甲山石灰石の開発によるセメント事業を推進。財界有力者の賛同を得て1923年秩父セメント(株)創業。

群馬県

日本煉瓦製造のレンガ ●⑤

石灰石は熊谷にある太平洋セメント熊谷工場まで運ばれ、セメントに加工される。

秩父鉄道 石灰石の貨物輸送

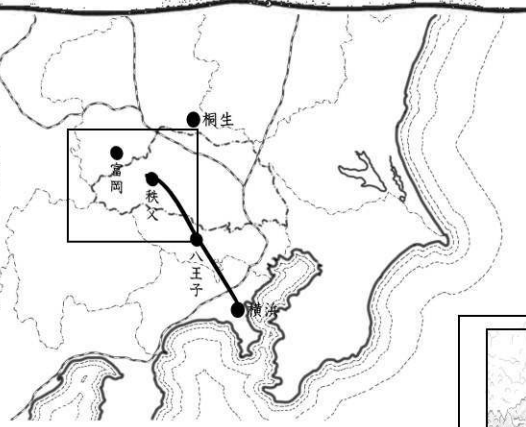
埼玉県

①武甲山 ②武甲山資料館 (秩父市大宮6176 半山公園内) ③武州原倉敷(「突放(とつぽう)」が読まれる貨物駅) ▲雲取山 ④旧秩父セメント第一工場 (秩父市大野原1800) ⑤旧日本煉瓦製造 ホフマン窯 (深谷市上敷28-10)

山梨県

深沢栄一（1849-1891）
深谷市出身。江戸末期から大正初期にかけての幕臣、官僚、実業家。第一国立銀行や東京証券取引所などといった多種多様な企業の設立・経営に関わり、「日本資本主義の父」ともいわれる。日本煉瓦製造の設立にも尽力。 東京都

絹の道



日本における養蚕の歴史は古く、195年には百済から蚕種が、283年には秦氏が養蚕と絹織物の技術が伝わりました。奈良時代には全国的に養蚕が行われるようになり、租庸調の税制の庸や調として、絹製品が税として集められました。

幕末の開国以降、生糸は主要な輸出品となり、明治時代に至り養蚕は隆盛期を迎え、良質の生糸を大量に輸出しました。群馬県や埼玉県で生産された生糸を、輸出港である横浜へ最短で運搬するルート上に、東武東上線や八高線といった鉄道が敷設されました。

繭の生産は、秩父地域の基幹作物として盛んでしたが、近年は減少傾向にあります。現在でも秩父地方では、春、夏、晩秋、晩晩秋の4回飼育され、このうち春蚕では県産品種「いろどり」が導入され、中山間地の特徴を活かした養蚕経営を担っています。



旧埼玉県繊維工業試験場秩父支場本館(現:ちちぶ銘仙館)
昭和初期、埼玉県の繊維試験場として建設。大谷石の石積みには帝国ホテルを建てたフランク・ロイド・ライト風。正面のペランダや玄関のデザインが華やかである。現在は当時使用していた織機や、秩父銘仙の歴史資料などを見学できる。

石間(いさま) 半納集落
「天宮の里」と呼ばれ、第三回「美しい日本のむら景観コンテスト」において全国農業協同組合中央会賞を受賞。標高1,038mの城ヶ原山の山麓に点在する5つの集落が並んでいて、集落内の民家は養蚕を営んでいた切妻平入と階建ての、蔵が多い。

埼玉県

秩父夜祭
秩父神社の例祭であり、毎年12月1日から5日に行われる。別名「お祭り」と呼ばれ、江戸時代には祭りとともに絹の市が立ち、秩父の経済を大いに潤したといわれている。

秩父夜祭

秩父市大宮6176 半山公園内

①ちちぶ銘仙館 (秩父市熊木町28-1) ②秩父神社 (秩父市番場町1-1) ③秩父市番場町2-8 (秩父市番場町2-8) ④石間半納集落 (秩父市吉田石間2620) ⑤内田家住宅 (秩父市馬田891)

山梨県

内田家住宅(国指定重要文化財)
江戸時代後期の大名様な養蚕家内田家住宅。内田家は秩父北条氏の家臣で、半納集落に落着き、永代名主をつとめた家柄である。

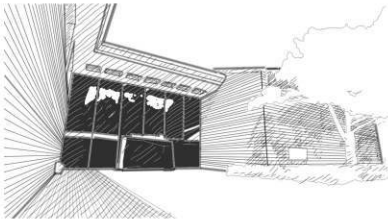
他にもある！マニアックな秩父の道

鉱物の道

九州東部から関東へ横断する日本最大級の断層である中央構造線と、相模湾からほぼ南北方向へ直線上に伸びる八王子構造線とが交差する付近に秩父地域は立地しています。

秩父地域は鉱物資源に恵まれ、古くは奈良時代に「和同開珎」で有名な銅鉱脈が黒谷で発見され、江戸時代には、金・銀・鉛・亜鉛・鉄などの金属鉱石が採掘されました。寄居・西ノ入では、ヒスイも産出されます。

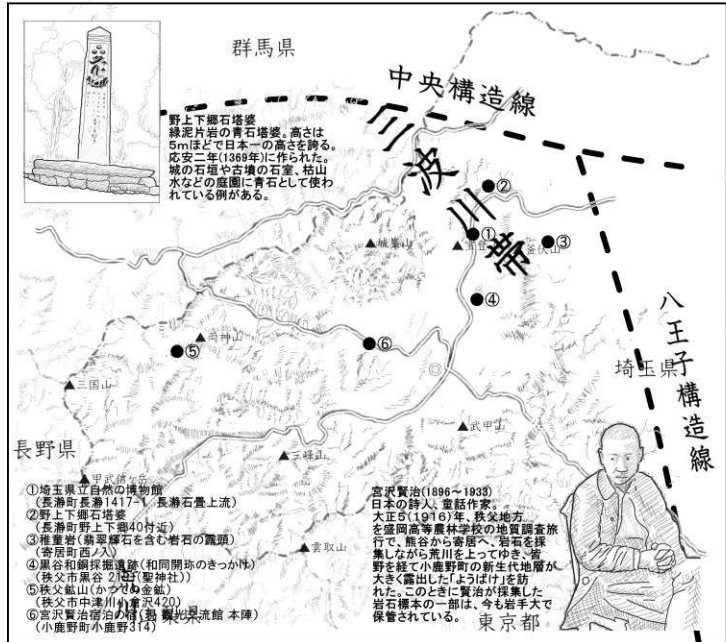
また、秩父地域は東京に近く、明治時代から日本の近代地質学における数々の先駆的な研究が行われてきました。「秩父古生層」や「三波川結晶片岩」などの命名・研究をはじめ、日本列島の模式となる研究が展開され、以後多くの地質学術の育成に貢献してきたことから、『日本地質学発祥の地』と呼ばれています。



埼玉県立自然の博物館
昭和56年に開館。生物、地層、化石などの展示から、埼玉3億年の自然をたどることが出来る県立の博物館。外壁は、埼玉会館、歴史と民俗の博物館と同様、打ち込タイル工法によるタイルが張られている。内部は、煉瓦色のタイルとワッフル状の天井が落ち着いた空間をつくり出している。ル・コルビュジエに師事し、戦前・戦後と近代建築の歴史に足跡を残した建築家・前川國男による設計。



前川國男(1905-1986)
新潟市出身。
ル・コルビュジエ、アントニン・レーモンドの元で学び、モダニズム建築の旗手として、第二次世界大戦後の日本建築界をリードした。埼玉会館、埼玉県立博物館も手掛ける。



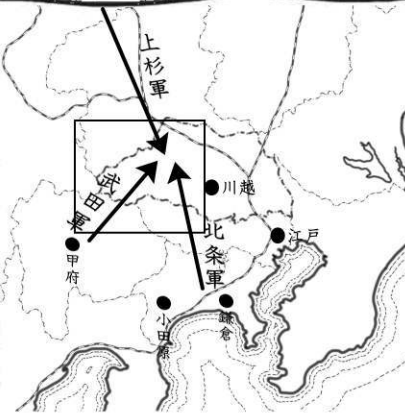
戦国の道

寄居は、古来より北部武蔵の拠点として重要な位置を占めてきました。

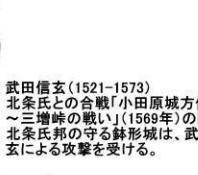
1476年(文明8年)、山内上杉氏の家宰長尾景信が荒川の崖上に鉢形城を築城し、その後、小田原の後北条氏によって整備拡張され、北部武蔵・上野国支配の拠点となりました。

その後鉢形城の戦略上の重要性は変わることなく、武田信玄や、上杉謙信らによる攻撃をうけました。

1590年(天正18年)、豊臣秀吉による小田原征伐がはじまり、後北条氏の鉢形城は前田利家・上杉景勝・島田利正・真田昌幸、徳川家康麾下の浅野長吉、本多忠勝、島居元忠らの連合軍に包囲され、約1か月の籠城戦の後、開城しました。



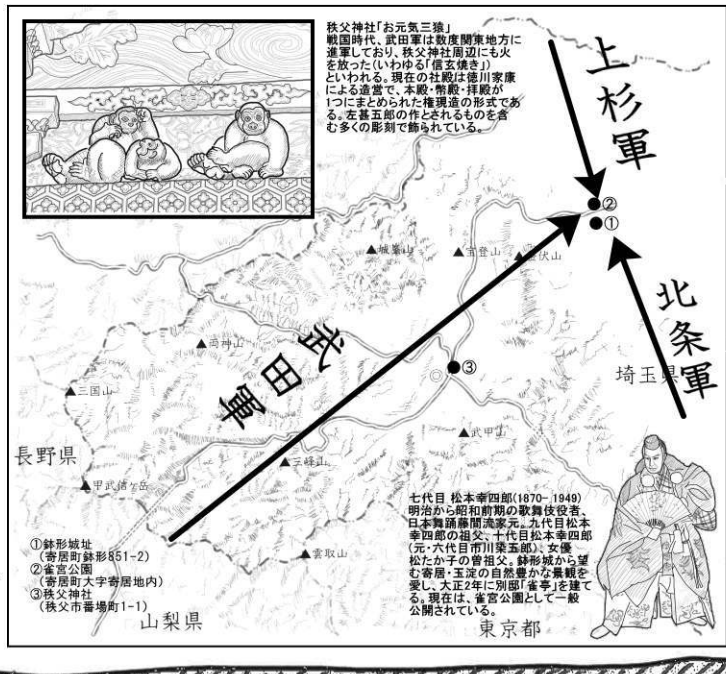
北条早雲(1432-1519)
1488年・1494年に、扇谷上杉定正とともに、高見原にて鉢形城を上杉頼定と対決するが、鉢形城を攻略できず。1546年三代当主北条氏康が上杉朝定・上杉憲政の拠る川越城を攻略する河越夜戦が起き、それに勝利して北条氏が武蔵国における覇権を確立する。1564年氏康四男北条氏邦が鉢形城へ入城を果たす。



武田信玄(1521-1573)
北条氏との合戦「小田原城方戦」・三増峠の戦い(1569年)の際、北条氏邦の守る鉢形城は、武田信玄による攻撃を受ける。



上杉謙信(1530-1578)
1574年北条氏四代当主氏政に対抗し、関東に出陣。金山城・駒西城・羽生城などを攻略。その際、上杉謙信は、氏政の弟氏邦の守る鉢形城下に火を放つ。



他にもある！マニアックな秩父の道

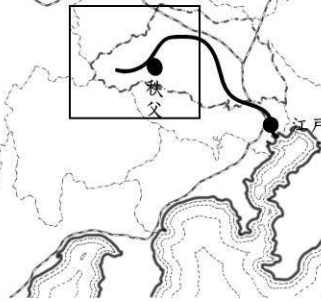
筏の道

江戸初期、秩父から大量の金が算出されたことから、天才発明家・平賀源内は、川越藩主の依頼で奥秩父で鉱山開発を行い、石綿などを発見しました。

また、秩父産の新炭の運搬用に、上流の秩父郡荒川村と江戸を結ぶ荒川通船工事の指導なども行いました。その結果、奥秩父の山林でとれる松や杉などの木材は筏に組み立てて、江戸の千住や深川へと送られるようになりました。

舟運が発達するにつれ、物資の取り引きがさかんになり、各地の特産物が注目されるようになると、秩父の絹織物等が特産物としてさかんに生産されるようになりました。

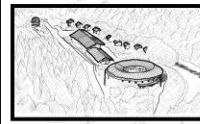
荒川源流部・入川に沿って昭和45年まで使われた森林軌道（入川森林鉄道）が存在していました。東京大学大演習林内にあったため、東京大学演習林軌道ともよばれています。



埼玉県立川の博物館
荒川を中心とした川と水と人々の暮らしをテーマとした河川系の総合博物館として、1997年に開館。「埼玉の母なる川」荒川を中心とする河川や水と人々の暮らしとのかかわりを様々な体験学習をとおして、理解してもらうことを目的としている。直径23m日本最大級の木製「大水車」は圧巻。

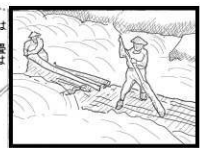


平賀 源内(1728-1780)
江戸時代中頃の人物。本草学者、地質学者、蘭学者、医者、殖産事業家、戯作者、浄瑠璃作者、俳人、蘭画家、発明家として知られる。自称「天空浪人」。
鉱山開発、木炭運送、毛織物生産、陶器製作、鉱石のブローカーなど、様々な事業に手を出した。静電気発生装置「エレキテル」、「燃えない布」火洗布（石綿）、万歩計、寒暖計、磁針器、その他100種にも及ぶ発明品を生んだ。



群馬県

長瀬ライン下り
荒川の筏下りの流れをひき、現在は船頭が操る舟で見る観光コース。1915年に開業する。碓氷峠から岩間を通り高砂橋へ向かう碓氷コースは約6km。



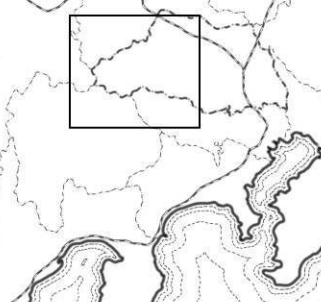
埼玉県森林科学館
森林や動植物の紹介や大製品の展示のほか、中津川沿いの三芳源内や遠藤家本多邸六の資料も展示。伊勢で採れた「こまどり産」は、中国・客家の集落「福建土楼」を彷彿とさせる円形宿泊棟。



東京都

狼の道

大古真神（おおこまかみ）は、日本に生息していたオオカミが神格化したもので、古来、聖獣として崇拝されてきました。また、害獣から作物を守護し、厄除け、特に火難や盗難から守る力が強いとされています。現在も秩父地方の神社を中心に、オオカミが描かれた神札が頒布され、信仰を集めています。
日本国内では明治末期に絶滅したとされるオオカミですが、荒川上流に広がる秩父山地は、かつてオオカミの生息地でした。ニホンオオカミがまだ棲息しているのでは！秩父山中で1996年に撮影されたという写真が、2012年にNHKの特集「見狼記・神獣ニホンオオカミ」という番組で紹介されましたが、専門家の見解ではオオカミだという確証は得られませんでした。



三峯神社（みつみねじんじゃ）
日本武尊が東征中、伊弉諾尊・伊弉册尊の国造りを偲んで創建。江戸時代には秩父山中の狼を、害獣から農作物を守る眷族と崇めようになった。さらに、盗賊や災難から守る神と解釈されるようになり、当社から護符を受けることが流行った。また、当社に参詣するための講が各地に組織された。
①住所：秩父市三峰298-1

